

第3回球磨川堤防調査委員会

1. 日 時：令和2年11月4日（水）15:00～17:00

2. 出席者

委員長

秋山 壽一郎 九州工業大学名誉教授

委員長代理

安福 規之 九州大学大学院工学研究院社会基盤部門教授

委員

上久保 祐志 熊本高等専門学校建築社会デザイン工学科准教授

佐々木 哲也 国立研究開発法人土木研究所 地質・地盤研究グループ
土質・振動チーム 上席研究員

福島 雅紀 国土交通省国土技術政策総合研究所 河川研究部河川研究室室長

（敬称略 五十音順）

3. 議事概要

○第1回委員会（現地調査）、第2回委員会での意見を踏まえ、左岸55.0付近、右岸56.4付近の決壊2箇所調査・解析の結果、決壊メカニズムを確認し、復旧工法について了承いただいた。なお、資料に記載されていないが可能性のある被災要因については、今後も委員より意見をもらいながら整理し、報告書に記載することとなった。

○被災要因の推定について

- ・要因の関連性が分かりづらいので、決壊までの流れにストーリー性を持たせて整理すること。
- ・定性的な整理になるかもしれないが、被災要因として考えられるものについては網羅的に整理すること。
- ・水が決壊箇所に集まったことを報告書に記載すること。

○復旧工法について

- ・堤防天端舗装の打継ぎ目は、被災要因も考慮して配慮事項を報告書に記載すること。
- ・新技術の活用も視野に整理すること。
- ・護岸を天端まで被覆するのと同様、遮水シートも川表から天端まで巻き込むように設置すること。
- ・堤防天端のクラックについては、復旧後の維持管理を継続的に実施する必要がある。

○その他

- ・解析結果から推定されることは、「確認された」ではなく記載の仕方を工夫すること。
- ・今回の説明資料に記載のない被災要因や復旧工法の詳細などは、報告書で整理すること。

【委員会の状況】

